

# 農薬豆知識 農薬のお話

## 〈秋播き小麦の雑草防除について〉

H24 年度産の秋播き小麦はどうでしたか？秋播き小麦の栽培で高い収量、安定した品質を得るには、適切な雑草防除は欠かせません。適切な雑草防除を行うには、どのような雑草が自分の畑に発生し問題になっているかを把握し、適切な除草剤を選択することが重要です。今回は、除草剤のタイプと対象となる雑草についてご紹介いたします。

### ① 非選択性除草剤

非選択性除草剤は、耕起から播種まで時間が空いてしまい播種前に雑草の生育が進んでいる場合に必要となります。しかし、コヌカグサ(レッドトップ)やシバムギといった地下茎で増えるタイプの多年生イネ科雑草は、耕起作業で地下茎が細断されることで再生し数を増やすので、グリホサート系などの非選択性除草剤による耕起前



処理が必要です。地下茎から再生するコヌカグサ、シバムギは、再生力が非常に強く、その後の土壌処理や茎葉処理での防除は困難です。

薬剤名：クサトリキングなどのグリホサート剤

### ② 土壌処理兼茎葉処理剤(秋)

土壌処理剤は、秋に発生し越冬する雑草が対象です。多くの雑草は栽培初期に発生し、この時期に発生した雑草ほど雑草害が強くなるので、土壌処理剤の使用は雑草防除の基本になります。土壌処理は、直接雑草に散布するわけではないので、土壌や気象条件の影響を強く受けます。土塊が大きいと除草効果が低下するので、砕土を丁寧に行う必要があります。播種深度が浅い(2 cm未満)と、出芽不良や生育抑制などの薬害が生じることがあるので注意が必要です。雑草発生初期時の茎葉処理は、生育の進んだ雑草には効果が劣る場合が多いので、それぞれの除草剤の使用適期に散布してください。



薬剤名：ガルシアフロアブル、ガレーズ乳剤、ペンディメタリン剤など

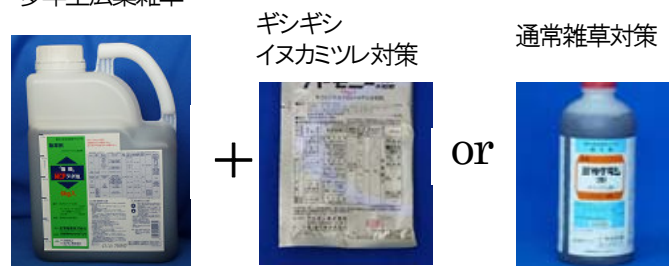
### ③ 茎葉処理剤(春)

春に発生する雑草に対しては春の茎葉処理剤が必要です。除草剤によっては効果の高い雑草と、ほとんど効果の無い雑草があるので、雑草の種類を確認した上で除草剤を選択します。また、生育の進んだ雑草には効果が劣る場合が多いので、それぞれの除草剤の使用適期に散布することが必要です。一般的に、雑草の葉や茎に薬液がかからないと効果が現れにくくなるため、繁茂しすぎる前に散布します。

薬剤名：MCP ソーダ塩、バサグラン液剤、ハーモニー7

一年生及び  
多年生広葉雑草

5DF水和剤など



このように、除草剤のタイプと対象となる雑草を理解し、

### 茎葉処理剤体系例

適切な雑草防除体系を構築することは重要です。また、連作栽培は防除の難しい雑草を増やすことが考えられるので、作物が変わることにより、雑草相が変わる輪作が望ましいと考えられます。

### 北海道の秋まき小麦の圃場で発生する雑草

区分	形態	雑草名
越冬生雑草	広葉	イヌカミツレ、ハコベ、ナズナ、スカシタゴボウ、イヌガラシ
	イネ科	スズメノカタビラ スズメノテッポウ
一年生雑草	広葉	シロザ、タデ類、タニソバ、イヌホオズキ
	イネ科	ヒエ類
多年生雑草	広葉	エゾノギンギシ キレハイヌガラシ
	イネ科	コヌカグサ(レッドトップ) シバムギ

(山ちゃん)

(2013年1月)